

がん検診 受けていますか

がんで死なない、後悔しないために。若い頃からの意識、予防が将来転ばぬ先の杖となります。がん検診の情報をお知らせします。

大田区で受けられる検診

大田区では対象となる区民に「がん検診等のご案内」を郵送しています。肺がんをはじめ、7種類に及ぶがん検診の他、緑内障や肝炎検診の案内も含まれており、多くは無料で受けられます。女性特有の乳がん、子宮がんでは、対象年齢の人が無料で検診を受けられます。

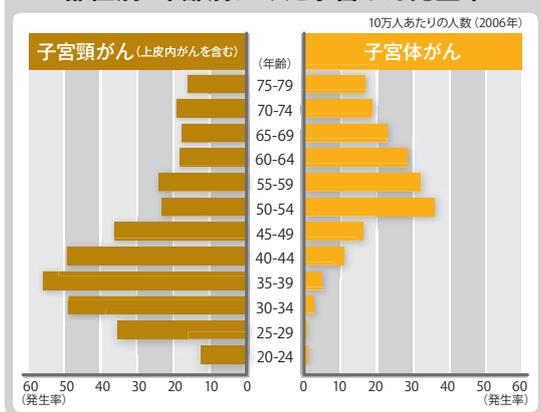
2006年6月に「がん対策基本法」が法律として制定され、「がん対策推進基本計画」にしたがって検診も行われています。しかし来年の2012年3月までの目標とされている受診率50%達成は難しそうです。2004年に発表された国民生活基礎調査では、胃がん肺がん検診など国が指定する5つのがん検診の受診率は約20%にとどまっています。

初期がんでは無症状の場合も

がんにかかってしまうのは、いくつになっても大変なものです。特に働き盛りの年代の場合はいっそう深刻です。経済的損失も大きく、本人はもちろん周辺に及ぼす影響は限りありません。

私は症状がないので、検診など受けなくても大丈夫、と思っていまじか。受けない人の中には「健康状態に自信があり、受ける必要性を感じない」との理由をあげる人が多くいます。が、誤解かもしれません。がんは誰の

部位別・年齢別にみた子宮がん発生率



出典:独立行政法人国立がん研究センター がん対策情報センター

身にも起こり得る病気です。初期段階では無症状の場合が多く、症状が出てからでは手遅れになることも。

しかし、早期発見、早期治療により、命を落とさず済むがんもあります。それぞれのがんの特性を知り、事前に予防できるものは早めの対策をとりたいたいものです。

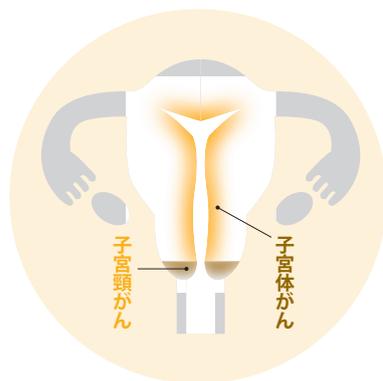
ウイルスや菌が原因のがん

がんにはさまざまな原因があり、あらかじめその原因の対策をとれば、かなりの確率で避けられるがんがあることもわかってきました。

その代表例として、胃がんがあります。胃がんの発がん因子には、ピロリ菌があることがわかっています。ピロリ菌の有無を見分ける検査も簡単で、ピロリ菌が見つければ、投薬等で除菌を行うと有効とされています。

女性特有のがんである子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルス感染が原因で引き起こされるといわれています。これを受け、2009年12月にHPV感染を予防するワクチンの使用が認められ、ワクチン投与が可能になりました。大田区では

子宮体がんと頸がん



大田区子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)接種助成制度についての詳細は、大田区保健所保健衛生課保健衛生担当へ問い合わせを。

2011年4月より、子宮頸がん予防ワクチンの接種助成制度ができ、中学生の女子に予防接種が実施されるようになりました。

女子中学生の保護者は、この制度を活用して、子どもの健康を守りたいものです。

他に女性特有のがんには、子宮体がん、乳がんなどがあります。乳がんは、セルフチェックで見つけることもできますが、マンモグラフィによる乳がん検診が推奨されています。

男性特有のがんには前立腺がんがあります。脂肪過多の食事を若いときから続けていくうち、高齢になるころに多く発症するとも言われています。